

第2期 国分寺市公民館運営審議会 平成29年度第2回定例会 要点記録

日時 平成29年9月11日(月) 午後3時～5時

場所 本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤(一)委員長・田中(英)副委員長・木下委員・佐藤(敏)委員・長谷部委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・大内委員・田中(雅)委員(欠席委員2人)

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・山口本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

(2) 第1回定例会要点記録確認⇒修正がある場合は、9月20日までに連絡をいただきたい。

2 報告事項

(1) 平成29年国分寺市教育委員会第5回・第6回・第7回・第8回定例会及び第3回臨時会について

事務局：資料1に基づき説明。

委員長：教育委員会で答申について何かご意見はなかったか。

事務局：国分寺市の公民館の歴史を踏まえた答申だということで、公民館運営審議会委員への感謝とともに、この答申を活かした公民館事業が展開されることを期待する意見を頂戴した。

(2) 平成29年国分寺市議会閉会中文教子ども委員会及び第3回定例会について

事務局：資料2に基づき説明。

副委員長：本多図書館を除く4館で一部業務委託導入の方向で計画が進められているが、図書館と公民館との連携が難しくなるというようなことはないか。

事務局：委託はカウンターや配本などの一部業務委託であり、カウンターやフロア一業務等の省力化が狙いである。各館に正規職員が残り事業展開をしていくため、今後も発展可能と考える。

委員：派遣でなく委託ということか。

事務局：業務委託であり、仕様書に基づき業務を行う。

委員：これまでのアルバイトではだめなのか。

事務局：業務委託の場合は、職員が個別に指示はできないが、委託先の責任者と館長が密に連絡を取り情報の共有化を図っている。図書館サービスの質を維持し向上させることを目指している。またコスト的には安くなる。

委員：光図書館ですでに実施しているが問題はない。委託事業者の職員も専門的な知識を持っている。

(3) 平成 29 年度国分寺市の教育について

事務局：48 ページから公民館について記載している。

委員長：委員の皆さんにも活用してほしい。

(4) 平成 28 年度国分寺市教育委員会教育目標に基づく主要施策の点検及び評価について

事務局：資料 3 に基づき説明。ジュニアサロン学習室については、今後 3 館目の開催に向けて検討している。アンケートの回収率を高めることが課題である。

またアンケート内容についても見直しを進めている。

委員：評価は審議会などでチェックしているのか。

事務局：各主管課で評価し、その後教育委員に報告し意見をいただいている。さらに学識経験者の知見を活用し最終評価となり、議会に報告している。

委員：市民や議会が意見を述べる機会はあるのか。

事務局：議会でご意見を頂戴することもある。またホームページで公開しているため市民からのご意見も伺うことができる。

委員長：ふるさと文化財は B 評価が多いが。

事務局：専門的な研究が必要なため、一定の成果をあげつつも評価が難しい部分がある。

委員：次に向かっての取り組みをどうするのかチェックが重要。

事務局：来年度の事業の組み立てに向け、検討していく必要がある。

副委員長：さらに発展させていくためにはどうしていくかが大切。A 評価でも次回どの部分に力を入れていくかなどコメントがあるといい。

委員：公民館運営審議会での評価を検討することも必要。答申を今後の施策の中身に活かすことが重要。

事務局：評価内容の記述については、答申を受けてどの施策に力を入れていくか反映していきたい。次期の計画に、答申の内容を活かしていくことができればと考えている。

委員：図書館運営協議会に委員として参加した際、協議会の中で図書館評価について評価を行った。公民館運営審議会での評価も必要ではないかと考える。

事務局：公民館でも、公民館評価については、将来的に取り組むことが必要だと考えている。

委員長：評価については相当な時間を要する。会議の中で必要と考えるのであれば時間を設定する必要がある。答申は 50 年間の評価となっているので、これからどうするのかを考えることが自分たちの役割であるといえる。答申と事業評価は平行してあると考える。答申が実質的な評価といえるのではないか。

委員：今まで公民館運営審議会では公民館評価を行っていないのか。

事務局：行っていない。評価する指標を何にするのかから考えていく必要がある。

委員長：膨大な事業がある中で、公民館を評価することは難しい。公民館運営審議

会では、日常的な公民館活動を踏まえて、公民館をより良くしていくためにはどうしたらよいか議題を絞り議論していくべき。建設的に評価していく。

委員：東京都公民館連絡協議会委員部会で公民館評価について話題になっている。

委員：他市では公民館運営審議会で公民館評価をしているという報告がある。

委員：諮問で公民館運営審議会での評価が必要とならない限り難しい。膨大な作業になる。

事務局：公民館事業は数値だけではとらえられない側面がある中で、この答申そのものが公民館評価と考えている。評価については、いずれは検討が必要かもしれないが、公民館運営審議会の中で公民館評価についての十分な協議がされてからでないと難しいと考える。

副委員長：評価をするための評価では意味がない。学校などでは子どもを見ている身近なPTAの評価が具体性がある。公民館でも公民館運営審議会ではなく、公民館運営サポート委員会での評価を吸い上げるかたちの方が良い。

委員長：「国分寺市教育委員会教育目標に基づく主要施策の点検及び評価」を踏まえて課題を設定していく。障害者が喫茶を運営している事業は何処にもない独自性がある素晴らしいもの。こうしたオリジナリティを評価する目を養うことが重要。

(5) 国分寺市公共施設予約システム導入状況について

事務局：資料4に基づき説明。

(6) その他

委員長：東京都公民館連絡協議会委員部会第1回研修会「公民館の役割とは」に参加した方の感想は。

委員：50年間を振り返り今後につなげていくという答申の意味を実感した。

委員：社会問題を公民館が事務局になり動いたという、歴史を感じる話は分かりやすかった。

委員：公民館が主体的になって物事を解決したという事例がいっぱいあった。公民館の職員の力量の問題があるということを感じた。職員への期待を感じる。

副委員長：たいへん面白かった。社会教育を専門的に学んだ人ではない新しい視点を提供してもらい、ヒントをいただいた。

委員長：外からの目で公民館の社会的な意義をきちんと捉えてもらうことが必要。公民館を利用していない人たちや分野が異なる人たちが、公民館が面白いと感じるような言葉を私たちが獲得していくことが大事。

3 協議事項

(1) 第1期公運審答申「地域づくりを目指した公民館のあり方」について

委員長：答申について率直な感想や意見を出していただきたい。絞り込みの議論は次回以降に進めていく。

委員：答申を読むと、行政や教育の中で公民館がしっかり位置づけられている。しかし個人レベルでは位置づけられていない。地域の中で公民館とのつなが

りがない人が多くいる。公民館自らが発信していくことが重要。

委員：50年間のすべての成果かという疑問。30年～40年近く公民館と関わってきた中で、自分にとっての公民館は、5館の「つどい」で市民や職員と課題を起し協議してきた歴史がある。その中で様々な人たちと出会い、学び、そこにはある意味での地域おこしがあった。公民館として何をしていかなければならないかという意識、一本の柱が見えない。ぜひ職員に頑張ってもらいたい。

委員：若い人たちと何が実現できるかということを考えてい。

委員：公民館を知っている人が少ない。顔ぶれはいつも同じ。公民館を知ってもらう、参加してもらうには何が必要なのかが課題。良い講座を行っても、知ってもらわなければ始まらない。連携や発信が大切。公民館を知ってもらうには何が必要かを考えるのも課題。

委員：定年後の居場所づくり、平和の問題など今起きている課題をどのようにピックアップするか。公民館運営審議会や公民館運営サポート会議で取り組んでいきたい事業についても検討できればよい。

副委員長：70歳から80歳までが公民館の主たるメンバーになっている。その中で若者をどのよう取り込んでいくのかが課題。公民館運営審議会がいかに公民館を支えてきたかが今回の答申では抜けていた。この点を紐解いていくとまだまだ面白いことがでてくるのではないかと。

委員：答申は6つの指標という50年間を踏まえた大きな枠の中で整理されている。今年度の事業はどうか、来年度はどのような事業を行うのかを考える際に、この6つの指標を頭に入れて組み立てていく。次に、他とつながり、開かれた外部者の視点を常に意識しながら取り組んでいくということをこの審議会でも真剣に考えていきたい。

(2) 今後の審議の進め方について

委員長：次回に、今回の答申で明らかになった点について提案したい。他の委員の皆さんも、議論のテーマについて意見を出してほしい。出席できない委員の方は書いたものを提出してもらいたい。

4 その他

事務局：東京都公民館研究大会を2月3日（土）に狛江市で開催する。課題別集会のひとつを国分寺市が担当する。「地域づくりと公民館」というテーマで検討中。事例報告で国分寺市の公民館運営審議会の委員の方に入っていただきたい。さらにもう1市の事例報告を出したい。

委員長：富士見市ではどうか。事務局にお任せする。

委員長：管内研修・管外研修について次回ご意見をいただく。次回日程は10月23日（月）午後3時から5時まで、本多公民館講座室で開催する。内容は答申を読んだ上での自由討論としたい。以上で本日は終了する。